

障害者団体に対するヒアリング調査の結果

7月8日から8月20日にかけて障害者団体の当事者や家族を対象にヒアリング調査を実施しました。8団体約90名参加がありました。

その結果、次のようなニーズや課題が出されました。

計画相談支援

○事業所と話し合っただけで計画を立てるが、事業所の規模が小さいと、希望する日時でサービスが受けられない場合がある。(事業所の都合に合わせて利用)

○相談支援員が、スキル不足、情報不足があるので十分な計画が立てられない場合がある。

介護給付

○(居宅介護)ヘルパーが不足している、質の向上も必要である。研修をして、ヘルパーのスキルアップをしてほしい。また、男性ヘルパーも含め、給料等の身分保障がないとヘルパーが増えない。

○(居宅介護)知的障害に対応できるヘルパーが少ない。(研修を受けていない)

○(同行援護)月によって利用時間がまちまち。余った時間を次月に繰り越したり、3 か月や半年単位など時間の幅を持たせたりしたら利用しやすい。

○(同行援護)公共交通機関を利用すると時間が合わない、遠回りになるなど時間が非常にかかる場合があり、費用も余分にかかる。自動車であれば、費用や時間が少なくて済むので、ガイドヘルパーにマイカー利用を認めてほしい。

○(短期入所)利用できる施設が少ないうえに、なかなか利用できない。(施設が増えていない)

○(短期入所)医療ケアが必要な子供が利用できるショートステイがない。また、中学生を引き受けってくれる施設もない。

○(短期入所)今後の自立に向けて短期入所を利用したい(宿泊体験)が、対応できる施設が少ない。

○(短期入所)利用したいときに利用できない。特に緊急時に受けってくれる施設がなく、困った。

○(重度障害者等包括支援)サービス時間を調整して利用しているが限界がある。介護者の負担が大きいので、できれば利用したいが、事業所の負担(金銭的・人的)になると聞いて無理を言えない。

訓練等給付

○(グループホーム)将来的にグループホームへの入居を考えているが、安心して生活できるか不安がある。

○(グループホーム)市内に重度身体障害者が入居できる場所がほしい。

○(グループホーム)グループホームが少なく、待機者が多い。将来入居できるか不安である。

○(就労継続支援)市内に聴覚障害者専門の施設がなく、週2回大阪市内まで行っている。聴覚障害者同士が交流できる施設が市内にほしい。

地域生活支援事業

○(日常生活用具)耐久年数は、その人の使用状況によって違ってくるので、決められた基準では、給付を受けられない場合がある。見直しが必要ではないか。

○(日常生活用具)補装具の判定のため医師と面談をするために、大阪市内まで出向いて行かなければならない。同じ業者を使って同じ補装具を作る場合、医師による検査は必要ないのではないか。障害者にとってはかなりの負担となるので、少しでも簡略化してほしい。

○(移動支援)サービス自体が使いにくく、時間数をたくさん頂いてもあまり使えない。使いやすいように改善してほしい。

○(移動支援)施設に入所しているが、親が高齢や病気のため、本人の通院や帰省ができなくなっている。施設の職員も大変であり、移動支援が使えるようになってほしい。

○(移動支援)平日通院する場合、作業所を休んで病院に行き、一旦家に帰ってから作業所に行くことになり、時間のロスができる。(直に作業所に行きたい)

○(手話通訳)緊急の時頼めない。緊急で病院に行ったときに、話が通じず時間がかかった。

○(手話通訳)申請しても時間がかかるイメージがあり、利用に結びつかない。

○(手話通訳)通訳士によってはレベルに差があるので、レベルアップをしてほしい。

○(手話通訳)市民病院に常駐の手話通訳士がいなかったため時間がかかってしまい、他の患者にも気を遣った。

○(日中一時支援)休日に、病気等で緊急の時に日中一時保護できるところがほしい。

その他

○どこに相談すればよいかわからない。事業所の情報がない。人伝で教えてもらった。

○サービス情報がない。市の窓口や市民センター等にチラシをおいてほしい。

○作業所に勤めているが、ボランティアや大学の実習生は、ほとんど来ない。体験を通じて、ヘルパーなど福祉の仕事に従事してほしい。

○訪問看護を受けたいが、市内に利用できる場所がない。

○歯科診療を受けたいが、どこでやっているかわからない。身近なところでない。

○公共交通機関や高速道路の割引がない。制度差別が存在する。

○親は、子供がいる限りずっと介護・支援を続けなければならない。病気等で休みたいときにいつでも安心して預けられる事業所がほしい。

○心のケアができていないお母さんがたくさんいる。一人で抱え込んで、切羽詰っている。

○親が亡くなった後、グループホームでの生活において年金だけでは足りない。親の支援が必要である。家賃補助がないと生活できない。